報告　世界天文年 2009 グランドフィナーレ
～“世界天文年後”に向けての第一歩～

安藤　享平（世界天文年ワーキンググループ）

1. はじめに

2009 年 12 月 5 日（土）・6 日（日）、兵庫県神戸市内において「世界天文年 2009 グランドフィナーレ」が世界天文年 2009 日本委員会主催、当会などの共催で開催されました。

この 2 日間は「閉幕」の行事ではなく、世界天文年を契機にして生まれた「資産」を今後に生かしていくための企画という意図で、黒田武彦さんを実行委員長に行われました。

5 日は「語り合おう　世界天文年」と題して、世界天文年の日本における活動を振り返り今後へと繋げていくための議論の場、6 日は「体験！感動！世界天文年」と題して、一般の方々に世界天文年のさまざまな活動を凝縮した体験型のイベントを開催しました。

本稿では、全体の企画実施状況のダイジェストと、「世界天文年後」の活動に向けたシンポジウムの内容を中心に紹介します。

2. 企画内容のダイジェスト

今回は 2 日間にわたり、本当に多彩な、日本における世界天文年の総決算ともいうべき内容で開催されました。[1]

図 1 兵庫県公館

2.1 「語り合おう！世界天文年」(12 月 5 日)

兵庫県公館（県が主催する大規模な式典や全国知事会などが開催される）を会場に、シンポジウムやセレモニーを中心に、申込制で行われました。参加者数は 187 名でした。

（1）シンポジウム I：世界天文年をふりかえって　（後述）

（2）グランドフィナーレセレモニー

世界天文年を締めくくる場として、海部委員長・来賓の兵庫県知事の挨拶、世界天文年の活動に貢献された方や団体への感謝状贈呈式、世界天文年 2009 エッセイ賞授賞式、若田宇宙飛行士がフライトの際に宇宙へと持参した「世界天文年旗」の披露と若田飛行士が宇宙で撮影した世界天文年に寄せてのビデオメッセージ披露が行われました。

（3）世界天文年 2009 エッセイ賞選評対談

渡部潤一さん（選考委員長）と小川洋子さん（作家・特別選考委員）[2]による対談で、エッセイ賞に寄せられた作品を通しての星空・宇宙への多くの方々の想い、選考してのそれぞれの想いが語られました。

図 2 エッセイ賞選評対談の様子

（4）日食はすぐにやってくる！2012.5.21 安全な日食観察のための緊急宣言

表記のタイトルで、2009 年 7 月 22 日の日食における、特に眼視による安全な観察方法についての考察と議論が行われました。最後に 2012 年に向けた宣言が出されました。（宣言は　4.2 を参照ください）

（5）ポスター掲示「世界天文年をふりかえる」

全国各地で実施された公認イベントの主催者の方々が、その活動事例をポスターで報告されました。また、世界天文年 2009 日本委員会事務局（以下、天文年事務局）による公認イベントの統計データや、公認イベント企画者へのアンケート実施結果についても報告がありました。

（6）世界天文年公認書籍成果報告会

グランドフィナーレセレモニーでは２日間に渡って「公認書籍」が大特集されました。初日は関係者向けに「公認書籍」の流れや書店における展開、今後の可能性について紹介されました。

（7）シンポジウムⅡ：つなげよう！世界天文年　（後述）

（8）懇親会

会場をパレス神戸に移して、世界天文年に携わった多くの方が集っての懇親会が盛大に開催され、学会とも普及研の年会ともまた違う、活気のある交流の場となりました。

2.2「体験！感動！世界天文年」（12 月 6 日）

兵庫県中央労働センターをメイン会場に、世界天文年で集積したノウハウの披露などを目的に、さまざまな参加体験型の企画を一般の方向けに実施しました。1066 名の参加がありました。

（1）モバイルプラネタリウム

大阪と明石からの、2 台のモバイルプラネタリウムによる「ツインドーム」で、多彩な解説者の顔ぶれでの投影をご覧いただきました。

（2）「地球から宇宙へ」天体写真展

モバイルプラネタリウムの入口に、世界企画である「地球から宇宙へ」の天体写真の大パネルが飾られ、写真による宇宙への旅をお楽しみいただきました。

（3）世界天文年セレクション商品展示会

各メーカーの協力により、セレクションに応募された天体望遠鏡や天文グッズなどの展示・販売がされました。中にはここで初披露となったグッズもあったようです。

（4）世界天文年公認書籍展示会

約 500 冊にもおよぶ公認書籍が一堂に展示され､手にとって見ることができたとともに、横には天文学者とウエイター？が控える質問コーナーが設けられました。

図 3 書籍展示の様子

（5）天文書籍出張販売およびサイン会

公認書籍を中心とした天文書籍の販売コーナーが設けられました。KAGAYA さんや小川洋子さんを始めとした、豪華な顔ぶれでのサイン会も開催されました。

（6）宇宙の果てまで立体シアターで旅に出よう

国立天文台の 4D2U シアターに出張上映していただき、宇宙への旅をお楽しみいただき

ました。

（7）企画体験コーナー「うちゅうにふれてみよう」

世界企画「うちゅうとあそぼう」と国内企画「君もガリレオ」の合同により、小さなお子さんから家族で宇宙に触れ楽しむコーナーが設けられました。

（8）星空から宇宙を駆け抜けるトークショー

KAGAYA さん、向井正さんと谷口義明さん、阪本成一さんと寮美千子さん、海部宣男さんと北尾浩一さんという、テーマごとで、対談を中心としてのトークショーが行われました。

（9）世界天文年 2009 グランドフィナーレ エンディング

「天文キャラクターといっしょに！明日にかける星」（「明日に架ける橋」と“かけて”います）と題してのエンディングイベントでは、ウルトラマンの登場と MISIA さんからのメッセージ、天文キャラクター大集合やエンディングビデオの披露、最後は海部委員長のメッセージと続きました。

図 4 サイン会での小川洋子さんと、登場した兵庫県キャラクター「はばタン」

（10）神戸の星の観察会

こうべ小学校を会場に、施設スタッフから同好会、また参加者の持ち込みまで、望遠鏡がズラリと並んでの大観望会が開催されました。天気に恵まれ、木星を始めとしたさまざまな天体を、多くの望遠鏡で観望していただきました。

3. シンポジウムにおける議論の内容

５日に行われたシンポジウムでは、「世界天文年後」を見すえての活発な議論が行われました。以下にその概要を記録します。

3.1　世界天文年をふりかえって

午前中に開催されたシンポジウムⅠでは、世界天文年を契機として、これまでにない場所・規模・実施者により開催された企画を振り返り、世界天文年がもたらした活動の広がりをまとめる形で行われました。

進行は世界天文年の世界企画であった「世界中で宇宙を観ようよ 100 時間」の日本での取りまとめ役をされた綾仁一哉さん（美星天文台）で、以下の報告、また取り組みの紹介がされました。

- 「基調講演」
  海部宣男委員長
- 「星を見る人ネットワーク作り」
  高橋真理子さん（山梨県立科学館）
- 「世界天文年で始まった観望会」
  川崎忠昭さん（星のソムリエ＠西宮）

海部さんからは、天文年を契機として構築され、未来へと繋げていきたい内容として、アマチュア・普及・教育・研究のさらなる連携、天文のネットワーク拡大・強化、天文を越えた科学的・文化的活動、国際的協同・協力（特に近隣アジア諸国との協力）について指摘がありました。

高橋さんからは、世界天文年を契機に、地域における施設やペンションなどとの情報交

換ネットワークが構築でき、さまざまな星との関わり企画が美術館、ペンションなどで始まったこと、今後は広く緩いネットワークを維持して土地の力を生かし美しい星空を誇りに思える街作りをしていきたいというビジョンが示されました。

川崎さんからは、天文年を契機に大きな複合商業施設における観望会を実施することができ、参加者・施設側から好評を得たことが報告されました。

図 5 シンポジウムの様子

この後事務局の大川拓也さんが中心となってまとめられた、公認イベント実施者のアンケート結果の紹介とともに、ディスカッションでは、「世界天文年」の「公認イベント」という大きな“旗”がさまざまな草の根活動を支援することができたこと、同じロゴマークを用いることで日本・世界各地で活動を行う人々との連帯感を感じ、モチベーションの向上にも繋がっていったことなどが感想として寄せられ、これらの継続についての要望が多く出されました。

そのほか、天文年によってさまざまな組織からのモノ・素材などの支援も大きな助けになったことが意見として出ました。

3.2　つなげよう！世界天文年

午後のシンポジウムⅡでは、午前を踏まえての今後の活動展開についての議論がされました。

まず、今後に向けてのキックオフとして、以下の方々からコメントがありました。

- 「世界天文年の盛り上がり　今後どう生かすか？」渡部潤一さん（企画委員長）
- 「キックオフトーク　研究者の立場から」松村雅文さん（香川大学）
- 「キックオフトーク　社会教育施設の立場から」渡部義弥さん（大阪市立科学館）
- 「キックオフトーク　アマチュアの立場から」飯塚礼子さん（日食情報センター）
- 「キックオフトーク　一般の立場から」ミマスさん（アクアマリン／ミュージシャン）

渡部潤一さんからは、企画委員長として国内企画の実施状況を踏まえてのデータの紹介とともに、今回さまざまなコミュニティーが結集して企画実施ができたこと、これまでにない天文普及活動の広がり、アプローチができたことが非常に大きな成果であること、これらのノウハウを持続することが大切であるとともに、人的ネットワークを始めとしたこれら資産をどのように引き継ぐかが課題であることが示されました。

続いてのキックオフトークでは、4 名の方・立場から今後への提案を頂きました。

研究者の立場から、松村さんからは日本天文学会が中心となって実施した「世界天文年全国同時七夕講演会」の事例を中心に、研究者が世界天文年に何かをやらなければと思いつつ、行動するよいきっかけとしてこの企画が作用したと考えられること、次年度も継続の方向であることが紹介されました。また研究者が研究成果を一般に報告していくなどのアプローチの重要性について、再度検討すべきではないかという提起もされました。

渡部義弥さんからは、一般の人々が知りたいと思う時に気軽に立ち寄りやすい拠点として、そして世界天文年の前も後も役割を果たし続ける施設のスタンスと今後の関わりについて紹介されました。そして、「めざせ 1000 万人！みんなで星を見よう！」の活動を通して、施設側にも協力の体制の温度差、多忙で対応できないなどの問題点があったことなども指摘されました。

飯塚さんからは、ボランティアとして活動するアマチュアにとっての拠りどころとして、公認というシステムやロゴマークの有用性、同じ方向性を持つアマチュアが情報を交換できる場所の必要性について指摘されました。そしてアマチュアが今後も天文教育・普及活動で行動できる場面が多くある可能性、日食における活動を踏まえ国際交流が天文活動を通してできる可能性についても紹介されました。

ミマスさんは、コンサートなどで全国各地の星まつりや学校への訪問を通しての長年の経験から提案していただきました。10 年前と違って、現在は多くの人が天文に興味を持ちうる情報を得られる状況ができつつあること、ただ正確な情報がどこで得られるかがはっきりせず、マスコミの情報だけでは興味を持った先に繋がりにくく、しっかりと一般の方が知りたいと思うポイントを押さえた情報を発信する場を、一般の方にもはっきりわかるようにできることが大切であると指摘されました。また天文年における盛り上がりは予想以上で、特に日食の盛り上がりがピークであったこと、ただしまだ一般の人にはプラネタリウムも望遠鏡も見たことがないという人が多くいることを踏まえて、今後の活動を進めていくべきであると提案されました。

これらのコメントを踏まえ、縣秀彦さんがコーディネーターとして、会場全体でのディスカッションを進行されました。ポイントとして、天文年後の活動の体制、地域のネットワークの構築、国際的な活動の展開について指摘され、会場からはさまざまな意見が出されました。

天文年後も、全国で一体感のあるイベントを開催するために、スターウイークなどの既存のイベントを積極的に生かして、より広い場所で行っていく方法、七夕や天文現象に集中しての全国的なイベントの開催についての意見がでる一方、天候などにも左右されるのでなるべく幅があると良い、さまざまな天体に目を向けられるきっかけを作ることも必要という意見もありました。

組織的な部分では、世界天文年の推進を担ってきた天文年事務局が解散した後の受け皿として、新たな組織を構築できればという希望とともに、資金面での困難さが指摘され、各コミュニティーなどの分担による実施などの可能性を探っていくことが今後の検討事項として挙げられました。

情報発信と提供の面では、国内では国立天文台が中心となって、天文現象などを積極的にマスコミにもアピールしていくことから、一般にも話題にのぼりやすく、ぜひアマチュアや施設など、その情報を受けて多くの場所で企画を実施していくと良いのではないかという指摘がありました。その一方で、そういったイベント開催の情報を一元的に集約・発信する必要性や、枠組みを越えた交流の場の必要性、そして今回の公認イベントでは企業や個人などの、これまでの天文関係のネットワークのどこにも属さないどころからの公認イベント実施例が非常に多く、そういったところへのアプローチとサポートをどうするかが、課題として挙げられました。

そのほか、世界的な取り組みで、日本でも多く実施された街角での観望会を積極的に実

施することの一般へのアピールの高さや重要性の指摘、世界的な動向に併せた動きを日本でも取ることへの議論も行われ、世界天文年後に向けたさまざまな課題と提案が次々と出されました。

今回のシンポジウムでは、結論がすぐに出ない課題が多く出る中でも、モチベーションを高め、行動していく一歩となったのではないかと思います。

4. 次に向けての「宣言」

先に触れたように、今回開催されたシンポジウムの中では、次に向けての一歩を確認する「宣言」が 2 つ出されました。

ひとつは世界天文年の活動を今後につなげていくための全体的な宣言文です。5 日の午前から 1 日かけて展開されたシンポジウムを踏まえて、海部宣男委員長から発表されました。

もうひとつは、2009 年の日食における展開を踏まえての宣言で、日食に関するシンポジウムで参加者間において共有され、次に日本で大きなイベントとなる 2012 年の金環日食に向けての活動の一歩となるものです。

ぜひ本稿をご覧の方々にも、その意図と方向性を共有いただければ幸いです。

図 6 力強く宣言をする海部宣男委員長

4.1 世界天文年 2009 グランドフィナーレ宣言 「世界天文年 2009 から未来へ」[3]

1609 年、ガリレオ・ガリレイは望遠鏡で宇宙を観測し、またたく間に大発見を重ねました。それから、400 年。望遠鏡とともにめざましく拡がった宇宙は、いまなお、驚きに満ちています。このガリレオの観測を記念し、世界中の人々が改めて宇宙に眼を向け新鮮な驚きと感動を分かち合うことを願って、世界天文年 2009 が実行されました。天文学研究には手が届かない発展途上国も含めて 148 カ国が参加し、真に世界的な活動として、大きな成功を収めつつあります。

日本では、「ガリレオの驚きをみんなの驚きに！」を合言葉に、研究・教育・普及の人々が集い、多彩な企画の数々が実践されてきました。

- 各地で天体観望会が開催され、多数の人々が宇宙と触れ合いました。
- 皆既日食は残念な天候でしたが、かつてない大勢の人が観測に挑戦しました。
- 小型望遠鏡づくり、大学や自治体での多彩な講演が、数多く行われました。
- アジアの星の神話や伝説を集めるアジア共同計画が、展開されました。

18 に及ぶ日本委員会主催企画、2700 件以上の公認企画、600 万人を超える「星を見ました！」報告や、5 千万件のホームページへのアクセス。これらは、全国津々浦々の人々が宇宙に触れ、世界天文年を楽しんだことを示しています。アジアやアフリカ、南米の国々との協働も、大きく展開されました。この世界天文年の活動を通して、宇宙が豊かな喜びを与えてくれることを、私たちは改めて実感しました。生命や人間が宇宙の歴史の中で育くまれたことに思いを馳せ、それを世界の人々が共有すること。科学が飛躍的に進歩した今も、自然と宇宙は新鮮な驚きの宝庫です。

国際天文学連合は、各国の要請により世界

天文年の活動を2010年も継続するとともに、発展途上国の天文教育や研究を支援することを決議しました。それは、「国際天文学連合10年事業計画」として推進されます。私たちも、国内はもとよりアジアや全世界の人々と、学び、考え、前進する喜びを、宇宙を通して分かち合ってゆきたいと思います。世界天文年2009を閉じるにあたり、この1年がもたらした驚きと感動、連携とネットワークをさらに拡げ、2010年以降も未来に向けた活動とその発展を目指すことを誓い、ここに宣言します。

2009年12月5日
世界天文年2009グランドフィナーレ＠神戸
世界天文年2009日本委員会

4.2　2012年金環日食の安全な観察のための宣言

私たちは、2012年5月21日の金環日食にむけて、安全な日食観察方法の検証に努め、ひろく周知していくことを誓います。子どもから大人まですべての人が、楽しく安全に日食を観察できるようになること、それが私たちの願いです。

2009年12月5日
世界天文年2009グランドフィナーレ
日食セッション「日食はすぐにやってくる」
参加者一同

図7 世界天文年のロゴマーク
日本語版も数種類作成され、世界天文年のさまざまなイベントで用いられた。

5. おわりに

神戸でのグランドフィナーレにおいては多くの会員のみなさま、団体、ボランティアでご協力いただいた方々によって行うことができました。この場をお借りして、改めて感謝いたします。

そして、会員のみなさまにおかれましては、世界天文年におけるさまざまな活動が、今後につながる一歩として根ざしたものになり、更に充実した天文教育・普及活動の流れになるために、引き続きご協力くださいますよう、お願いいたします。

図 8「Beyond IYA」のロゴマーク[4]
神戸でのグランドフィナーレ後、世界天文年後の活動に使用されるロゴマークが国際天文学連合などから発表された。

文　献

[1] 全体の概要は「世界天文年 2009 日本委員会」の Web ページを参照してください。
http://www.astronomy2009.jp/ja/project/finale/index.html

[2]小川洋子さん：小説家。
1962 年、岡山県生れ。
早稲田大学第一文学部卒。1988 年「揚羽蝶が壊れる時」で海燕新人文学賞を受賞。1991 年「妊娠カレンダー」で芥川賞受賞。2004 年「博士の愛した数式」で読売文学賞、本屋大賞を受賞。『博士の愛した数式』は日本で映画化され、『薬指の標本』はフランスで映画化されている。著書に『刺繍する少女』『ブラフマンの埋葬』『ミーナの行進』『ニューヨーカー』『おとぎ話の忘れ物』『海』『はじめての文学』等の作品があり、幅広い作風で活躍している。自然科学のエッセンスの含まれた作品も数多く執筆。

[3]宣言文中における公認イベント企画数や、「めざせ 1000 万人！みんなで星をみよう！」の参加者数などは、宣言文発表時のもので、最終確定数と異なることにご注意ください。

[4] 世界天文年 2009　global Website から
http://www.astronomy2009.org/resources/multimedia/images/detail/iya_logo_beyond/

図 9 ガリレオくんからも
「引き続きよろしくお願いします！？」

安藤　享平